編集部一同爆笑!! 2014マンガ賞・グランドスラム受賞作
わびさびに生きた男の秘話
戦国茶人伝
利休居士
南蛮より怪しげ…もとい珍しき茶葉が手に入りましてな
利休殿が来られるとあって本日特に淹れさせて頂いた
それはそれはお心遣いを
ギャグの超新星!!
川岩正義
この利休秀吉様の茶頭筆頭として仕えますれど
心労の祟った身には茶の温かさが一層ありがたく
…ほう? 何とも変わった香りで
はっはっ! 太閤様には侘び茶の良さは解らぬでしょうな!

ズズ…
何分派手好きな御方にて
カッ
ツ!?
でーーん
りっ…利休殿!?
いかがされた!?
利休殿!!
利休どのぉ~~~!!
利休どっ…
……

はっ…
…どうやら倒れておったようじゃな
いや…これはとんだ粗相を
むくり…
この南蛮の茶は老体には ちときつう様で…

すぴ〜
くう〜
!?

…やれやれ

これ娘

たしかに わしは茶の湯の門戸を開いてきた

旧態依然の形ばかりが高尚な

武家や公家のみの嗜みであった茶の湯を改め

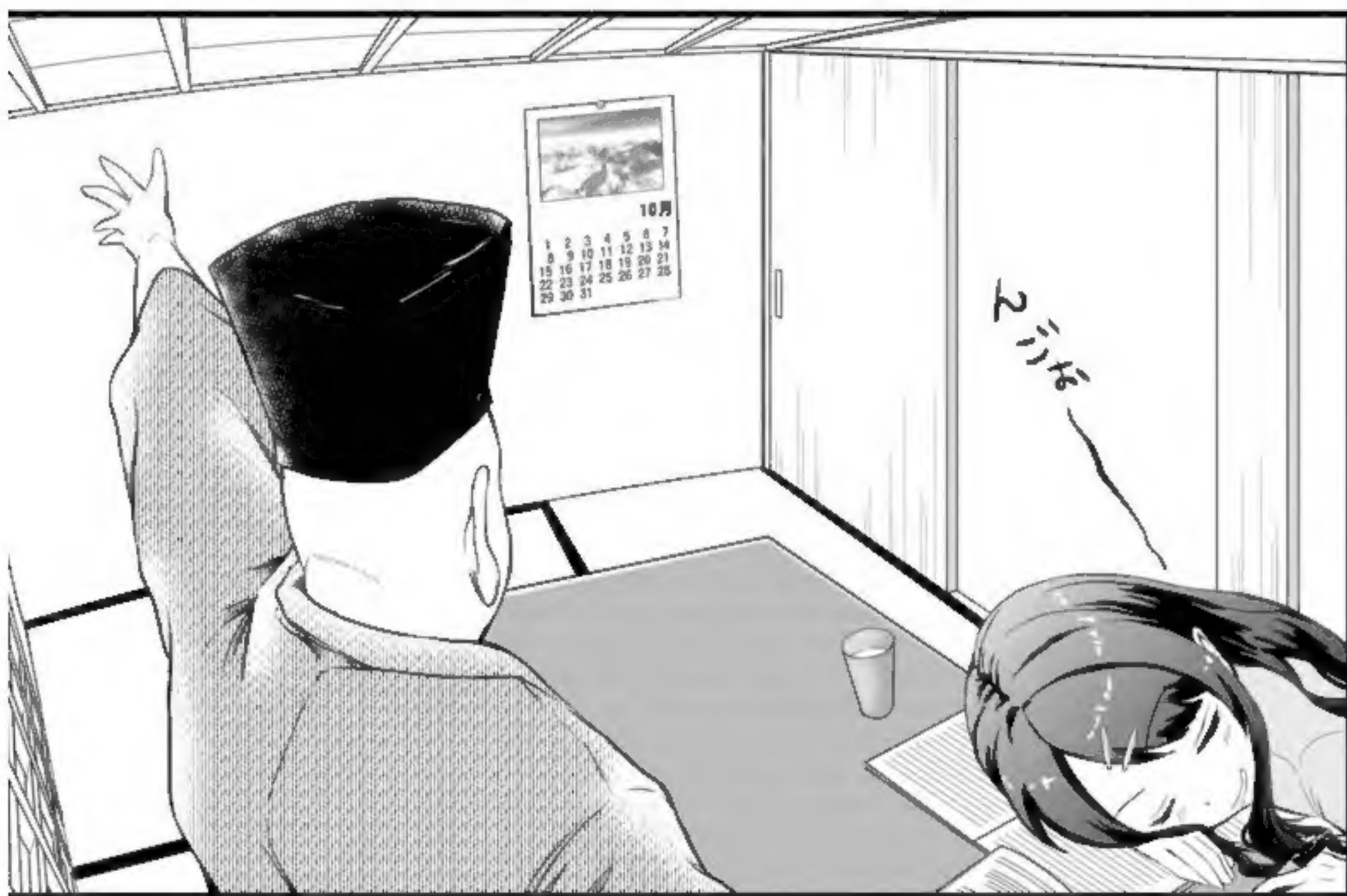
ブロロロロ…

貧富や身分を問わず庶民の間にも親しまるるを目指したが故

わびさびの本意じゃ

さりとて無断で他人の茶室に上がり込むとは意味が違う!!
ドッ
此処を何処と心得るか!!上田様が茶席の最中にあるぞ!!

10月

んごぉ〜

うーむ…
弱った
先刻まで一緒におられた
上田様は何処に行ってしまわれたのだ?
いや
上田様だけではない
よくよく周りを
見渡してみれば
先刻までいた茶室と
趣が異なる…
見たことが
ないものまで
あるな
…むう
夢にも
あらずや…
しかし まだ
茶が温い
上田様の茶席で
茶を頂いてから
しばらくも経っては
おらぬ様じゃ
したらば
その頃よりの記憶を
辿ってゆかねばなるまいて…

何やら不可思議な
香りのする
南蛮の茶を一口飲んで
それから
でーん…
でーん
おお!
そうか!
どうやら気を失のうてから
上田様の屋敷に奉公せし
下女の部屋へと
運び込まれていたようじゃ
その間 この娘が
わしを看ていてくれた
という訳か

齢六十を超えておるとはいえ何たる失態…上田様もさぞや驚かれたことだろうて
世話になったな
さあ急いで先いた茶室に戻らねば…
……さりとて
この部屋の有り様はなんじゃ！訳の分からぬ出鱈目な物で部屋の景観を損ねおって
日の本の美しさなど微塵もなし！
茶人としてわびさびの良さを広めんが為努めてきたが
下々の者にまでは伝わってはおらぬのか…

おおおっ…!?

コオオオオオ

なっ…!
なんという
ことじゃ!

よもや
この下女の
部屋に
於いて

これほどが
逸品に
出逢うとは!!

全く無駄の無い完璧な形!!!

一切の歪みや斑が無く
その精巧すぎる仕事ぶりは
景徳鎮が名器の上!!

げに人の手により
作られた物とは
信じられん!!

余計な装飾を
良しとせず
簡素を貴ぶ
わびさびの精神が
結集せし
名品なり!!

ダイ

← 100均

人によっては
面白みのない器に
見えるやもしれんが
無駄を省きに省いた
その形は実に侘しい…
そして
持ちやすい

飲みかけ

このわびさびな
湯呑みは
ありがたく
頂戴しよう

おっと
いかんいかん

わしとしたことが
礼も申さず
立ち去るところ
じゃった
しかし寝ている者を
無下に起こすも
はしたなきこと

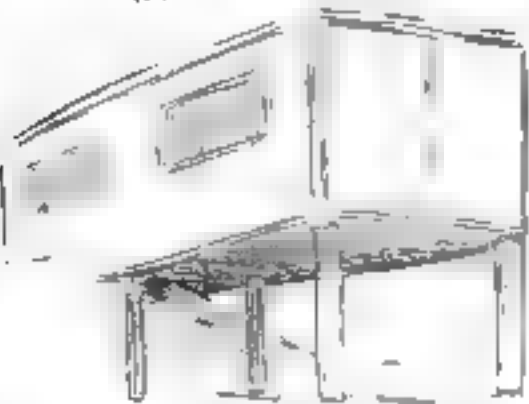
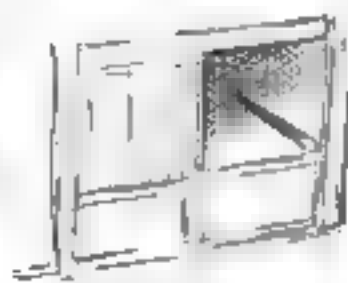
ここは謝礼を
書き残していくが
良かろうて
さて
何処に記すか
思い切って
背中に…

※ふざけた ばかばかしい の意

キーンコーンカーンコーン
キーンコーンカーンコーン…
もみもみもみ
やぁ～ん

…驚いた
もみもみもみ

この手触り
大陸でしか手に入らぬ
稀少な綿ではないか

しかし 高級品である筈の
この綿織物から
何故
質素な品に宿る
侘しさを感じて
しまうので
あろうか？
わびさびの
侘しさを…

…わからなくなってきた
わびさびが

わからなく
なってきた…

これほど綺麗に裁断された紙は初めて見た！紙の一枚一枚が美しいまでに真っ直ぐと整えられておるわ！

げに人の手により作られたとは信じられん！

正確に同じ大きさに揃え過ぎたが故のこの個性の無さはわびさびの侘しさに通ずるものがある！まさに利休好み！

それに比べて…

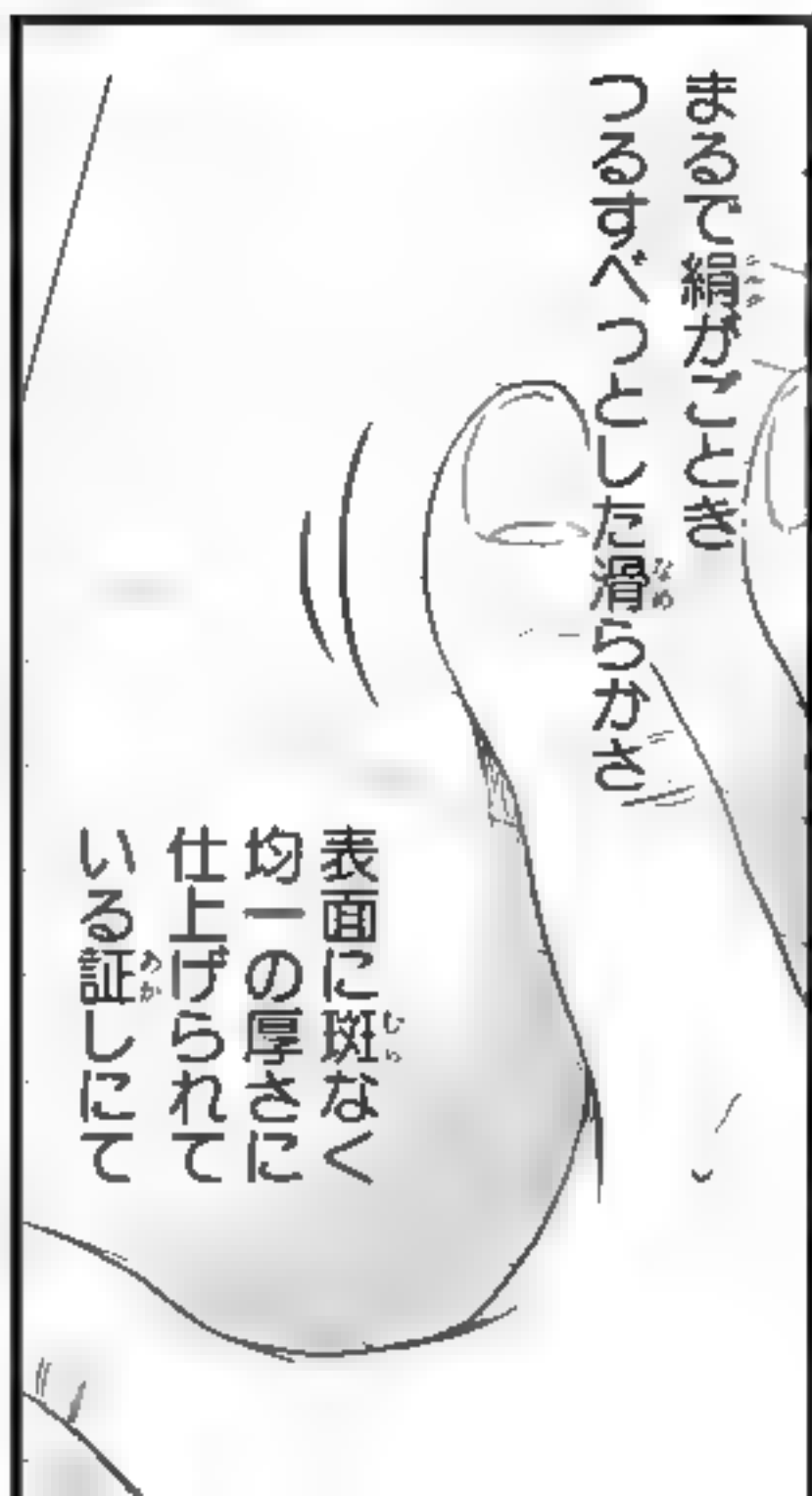
この娘の字の汚さはどうにかならんものか

精進されよ!

乙!!

ドッドッドッ

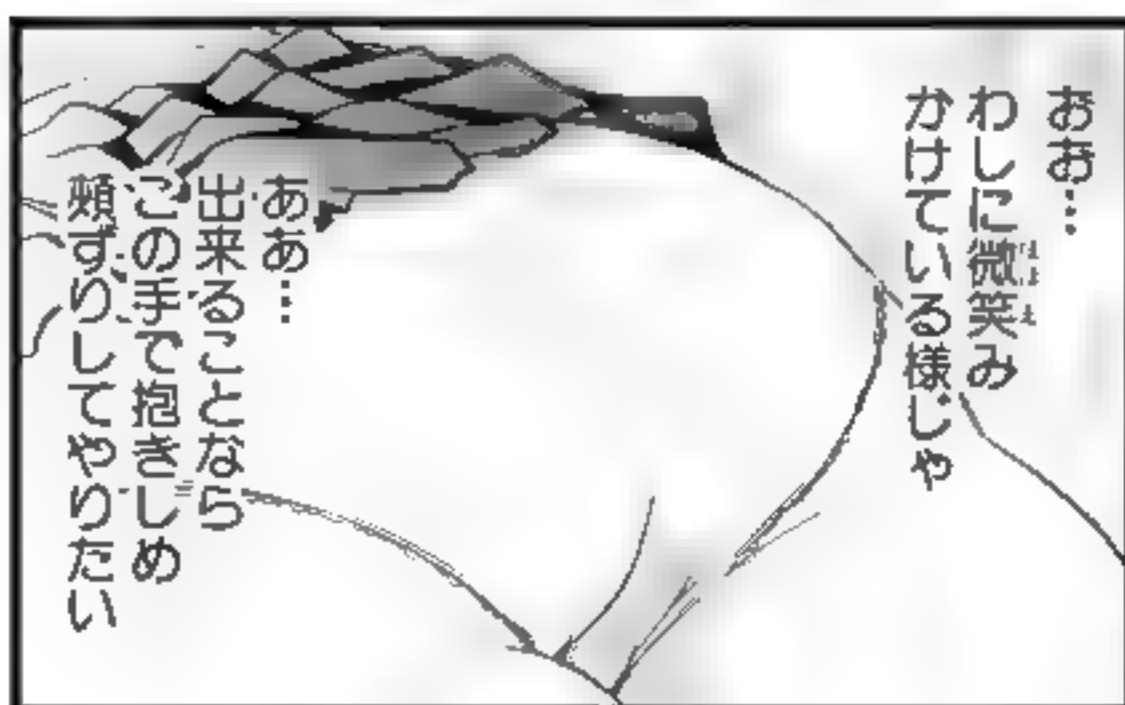
そしてこの紙のさらに素晴らしきは

この手触りじゃ!!!

まるで絹がごときつるすべっとした滑らかさ

表面に斑なく均一の厚さに仕上げられている証しにて

紙とは水に溶かした原料を簀子で漉いてつくりしもの

人の手により漉く以上厚みに斑が生ずるは致し方なきこと…

だのにこの紙の触り心地といったらどうじゃ!!

あ～おおおー

処女が柔肌がごときすべすべじゃー!!

すべすべじゃー!!
はっはっ
すすすすす
すすすすす…

すすすす
すすすすす

おや?

着物の下にまだ白き着物が…

なんじゃろう?
ふんどしでも穿いておるのか?
はっ…

おおおおおっ!!!

かっ…
かわいい!!

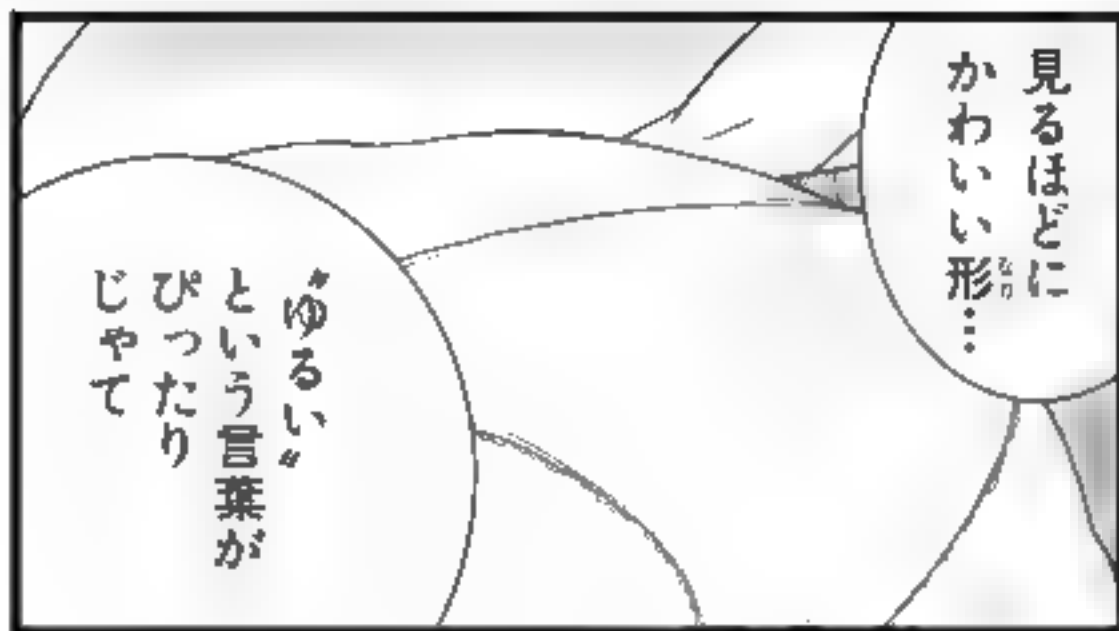
しかし この格好のままでは 分が悪い…
茶人としては もう一工夫 欲しいところ

ガタ
とりあえず机をどかそう
ゴト
ガタ
この壺は使えるやもしれん

ガタ
いらん物は下に置いて
ゴト
足を開いたままに出来んか
ガタ
ゴト
ゴト
いかん崩れてしまう

ガタ
おっ安定した
ゴト
ガタ
したらばこの腕をもうちょこ…

し―――ん…

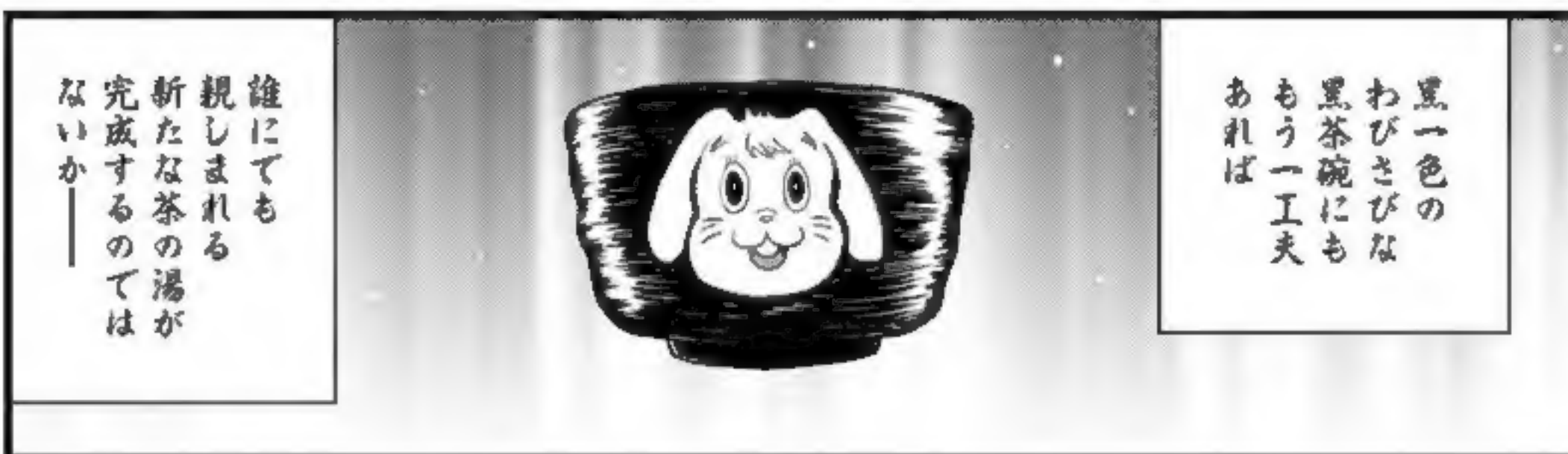
うむ！見やすうなった
何より風情も増した

げに絶景やも！

白鳥を模したが故部屋との調和もとれておる
下女の娘はちと苦しいやもしれぬが
優雅な白鳥も水面の下では必死に足をばたつかせるものよ(？)

見るほどにかわいい形…
"ゆるい"という言葉がぴったりじゃて
おっと悪しき意味にとられるな
そちを見ておると自然と口元がゆるむということじゃ

秀吉様やわびさびを知らぬ者にとってはつまらぬ物…か

この作品の感想を送って下さい。あて先は
➡〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-2-2
白泉社 ヤングアニマル編集部「戦国茶人伝 利休居士」係

まぁた勝手に
和室使って
ガラ
千利子！
呼んでるでしょ
あんた留守中
ちゃんと
勉強
……
何やってんの？
あんた…
…利休殿
利休殿
利休殿！
「RaRa」11月号応募者全員パンティー
©2014HAKUSEISHA

戦国の厳めしい乱世から人々の笑顔で華やぐゆるい日の本にしたい——

利休の脳裏にはあの時見たうさぎが浮かんでいた

おわり